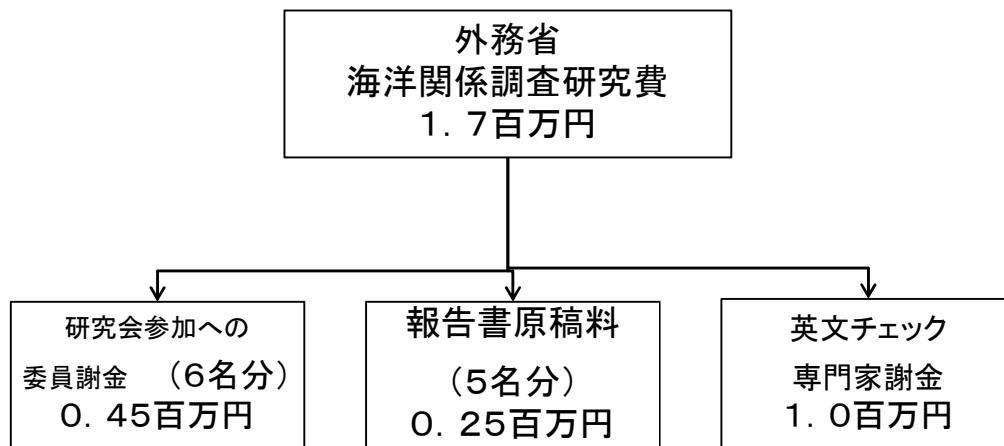


平成23年行政事業レビューシート (外務省)

事業名	海洋関係調査研究費	担当部局庁	国際法局	作成責任者				
事業開始・終了(予定)年度	平成13年度	担当課室	海洋室	室長 加藤 喜久子				
会計区分	一般会計	施策名	国際法の形成・発展に向けた取組に必要な経費					
根拠法令 (具体的な条項も記載)	外務省設置法第4条第5項及び第6項	関係する計画、通知等	—					
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	1 国際的な海洋の法的秩序は国連海洋法条約(UNCLOS)を中核とするが、UNCLOSの運用は、各国の国家実行、関係国間の交渉及び国際海洋法裁判所等の判例の積み重ねに委ねられている部分が大い。現在生じている、又は将来生じると予想される海洋関連問題に関し、我が国の海洋法研究者等に調査研究を依頼し、その成果を我が国の政策企画・立案に反映させる。 2 我が国の大陸棚延長に関する大陸棚限界委員会の審査を円滑に進める。							
事業概要 (5行程度以内。別添可)	1 海洋室を中心に外務省として選定したテーマに関する研究を海洋法研究者に依頼し、研究者と外務省関係者等が参加する研究会において、その成果に関する意見交換を行う。成果物は報告書にまとめ、執務参考用に活用する。 2 UNCLOSに基づく200海里を越える大陸棚の延長申請のため、国連大陸棚限界委員会(同委員会が妥当と認めた大陸棚外縁は国際的な承認を受けたと見なされる。)に提出する文書を作成する必要がある。右文書は地質学、地球物理学、水路学に関する高度に学術的な英文文書であるところ、専門家に英文のチェックを依頼する。							
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 業務委託等 ☐ 補助 ☐ 貸付 ☐ その他							
予算額・執行額 (単位:百万円)	予算の状況	当初予算	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度要求	
		補正予算	—	—	—	—		
		繰越し等	—	—	—	—		
		計	1	1	2	2	2	
	執行額		1	1	2			
	執行率(%)		85.70%	88.80%	95.71%			
成果目標及び成果実績 (アウトカム)	成果指標			単位	20年度	21年度	22年度	目標値 (23年度)
	1 海洋関連問題に関し、我が国の海洋法研究者等に調査研究を依頼し、その成果を我が国の政策企画・立案に反映させる。 2 我が国の大陸棚延長に関する大陸棚限界委員会の審査を円滑に進める。	成果実績	資料報告数	5	5	5	5	
		達成度	%	100	100	100		
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標			単位	20年度	21年度	22年度	23年度活動見込
	1 研究者と外務省関係者が参加する研究会において、その成果に関する意見交換を行う。 2 大陸棚限界委員会に提出する英文文書を専門家にチェック依頼している。	活動実績 (当初見込み)	研究会開催	6回	6回	6回	—	
単位当たりコスト		コスト 1人あたり28万円		算出根拠	1,682,000÷6回(委員6人)			
平成23年度 (単位:千円) 予算内訳	費目	23年度当初予算	24年度要求	主な増減理由				
	謝金	1,682	1,682					
	計	1,682	1,682					

事業所管部局による点検			
	評価	項目	特記事項
目的・状況・予算の	○	広く国民のニーズがあり、優先度が高い事業であるか。	目的・予算執行については、効率的・適切に処理されている。
	○	国が実施すべき事業であるか。地方自治体、民間等に委ねるべき事業ではないか。	
	○	不用率が大きい場合は、その理由を把握しているか。	
資金の流れ、使途・費目・	—	支出先の選定は妥当か。競争性が確保されているか。	
	○	単位あたりコストの削減に努めているか。その水準は妥当か。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	—	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	
活動実績、成果実績	○	他の手段と比較して実効性の高い手段となっているか。	
	○	適切な成果目標を立て、その達成度は着実に向上しているか。	
	○	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	
	—	類似の事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担となっているか。	
	○	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	
点検結果	1 我が国の国際界の第一線で活躍し、高い評価を得ている海洋法研究者の研究成果のレベルは高く、外務省における政策企画、立案に際して大変有益な貢献となっていることから本事業の継続は不可欠、また研究会も効率的に行っており、見直しの余地は少ない。		
	2 我が国が大陸棚限界委員会に提出した資料は、同委員会より、これまで各国から提出があった資料の中でも最も良くまとまったものであるとの評価を得ており、引き続き我が国申請の審査が行われている限り同委員会から要請される追加的な情報提供の作業に適切に対応するため、専門家による英文チェックの作業の継続は不可欠であり、見直しの余地は少ない。		
予算監視・効率化チームの所見			
現状通り		—	
	上記の予算監視・効率化チームの所見を踏まえた改善点(概算要求における反映状況等)		
—			
補記 (過去に事業仕分け・公開プロセス等の対象となっている場合はその結果も記載)			

※平成22年度実績を記入



資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:百万円)

費目・使途
（「資金の流れ」
においてブロッ
クごとに最大の
金額が支出され
ている者につい
て記載する。費
目と使途の双方
で実情が分かる
ように記載）

A.			E.		
費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
その他	研究委員謝金	0.5百万円			
計		1	計		0
B.			F.		
費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
その他	原稿料	0.25百万円			
計		0	計		0
C.			G.		
費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
その他	英文チェック専門家謝金	1.0百万円			
計		1	計		0
D.			H.		
費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0

支出先上位10者リスト

A.

	支 出 先	業 務 概 要	支 出 額 (百万円)	入札者数	落札率
1	A専門家	大陸棚限界委員会資料英文チェック	1		
2	B委員	海洋法関係研究会	0.12		
3	C委員	海洋法関係研究会	0.11		
4	D委員	海洋法関係研究会	0.11		
5	E委員	海洋法関係研究会	0.11		
6	F委員	海洋法関係研究会	0.11		
7	G委員	海洋法関係研究会	0.11		
8					
9					
10					